

# 教務だより

2013年2月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 最後まであきらめない！

茗溪塾塾長 宇野雅春

中学受験が終わりました。高校受験や大学受験でも終わった生徒がちらほら出てきています。そんな中で高校受験 大学受験は「大詰め」というところです。厳しい寒さも少し和み、日も少し長くなってきている頃です。中学受験については色々な反省が心を占めている時期ですが、とにかく楽々合格はない…ということだけは、身にしみて感じました。努力の手綱を緩めてはいけないということです。

高校受験はいよいよ公立が始まり、大学受験も国公立へと向かいます。「受験は心の勝負」というのが、茗溪塾の合言葉ですが、メンタルを安定させるということが、やはり大切なことだと思います。

直前のこの時期に、安定しているとはどんなことか？第一は、きちんと問題に向かえているということ。出来なかった問題をきちんと理解し、自分に定着させようとしているかということ…そこに尽きると思います。今まで漠然としていたことが、はっきり分かるという体験があれば、大きなレベルアップにつながりますし、覚えることにも集中できていることが実力を大きく前進させます。

不合格になる「空回り勉強」に陥っている人は、行動で分かります。今頃、学校の話、それも、自分が受験する学校ばかりでなく友達が受験する学校の話まで、しきりと話題にする生徒がいます。だれがどこに合格したとか、不合格だったとかの噂話も多いのが特徴です。心が安定しているようで、これはとても悪い状況と言わざるをえません。受験がまだ自分のこととして認識されておらず、不安な気持ちを雑談で紛らわそうと、噂や人が言っている情報などに終始するという事です。今は勉強をするしかないその時に、あれこれ考えているのです。

入試直前に、迷い考えるということは、心の面を不安定にさせ、混乱を招きます。目標も何だったのか分からなくなり、結果として、勉強していることを息苦しく感じるのです。そういう意味で心が安定していること（無心）が、一番着実な成功を作ります。

入試問題というのは、今まで習ったことのほんの一部にすぎません。何が出るかは予測できません。あれがまだ分からない…そうだ、あれも分からない！という具合に、不安はとどまる所を知らず、プリントをたくさんもらったり、問題集を沢山買い込んだり…ここですでに敗北は見えてきています。弱点に関する内容をそろえることに熱心なあまり、それを理解してマスターする所までは、なかなかいきません。これも、だめです。

「何をやったらいい？」と今更聞いてくるのもどうでしょうか？「過去問」以外にもたくさんやり直し教材は溢れるくらいにあるはずですが、「やり直しをして理解を進める勉強」が重要です。苦手なものは、形だけの勉強にしてしまうようでは合格はあり得ないのです。このことに気がついている勉強であれば、短期間でも十分にこなすことが出来るはずですが、諦めるのは、面倒なその作業をやりたくないからです。

受験しながらでも実力は伸びます。最後の最後にやっと第一志望に届いた例を、今年も中学受験ではたくさん見ました。諦めずに、ちゃんと努力すること。そのことが気持ちを落ち着かせ安定した心の状態を作ります。直前でも、試験の最中でも、実力のアップはあります。ごまかしの無い本当の理解をしたときにそれは起こります。

結果が確定するまで、黙々と努力を重ねよう。つらく感じることも多いと思うけれども、つらいときが自分を伸ばしている時です。自分がある意味で越えることが、成長ということです。成長の無い人生は空しいものです。また、その成長はどこか特別な場所にだけあるのではなく、世の中のどんな場面にもあるものです。いまは受験の中にそれがあります。

春はもうすぐそこまで来ています。今が、踏ん張りどころだと思います。